

東舞子

2018/05/2 (5月号)
神戸市立東舞子小学校
平成30年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

相手を思いやる心が育つように

校長 古池 茂

新年度が始まり、早1か月が過ぎました。校庭の木々が日増しにその緑を深め、春から初夏へと季節は移ろうとしています。子供たちの登校時の「おはようございます」のあいさつの声は、日ごとに堂々と張りのあるものになってきました。あいさつは人の心を通わす最も大切なものです。これからも、あいさつを大切に思う東舞子の子供たちであってほしいです。

子供たちは新しい学年になり、初めて学習する教科等に興味津々です。3年生は理科、社会科、5年生は家庭科などが始まりました。また、4年生はクラブ活動、5年生は委員会活動に初めて取り組み始めました。クラブ活動や委員会活動は、特別活動と呼ばれる活動の一つで、人間関係や自主的、実践的な態度を育てる活動として教育課程で位置付けられています。

先日、子供たちの委員会活動を参観する機会がありました。その中で第1回目の保健委員会の活動では、目を見張る子供たちの姿がありました。まず一つ目、委員会の役員を決める時のことです。委員長に立候補する子供が、6年生からなんと5人。担当する3人の教員もびっくり。やる気に満ち溢れた6年生の姿にそのたくましさを感じました。二つ目は、5年生です。書記の立候補が3人。その3人が投票で同票となり、担当の教員がどう決めたらよいか迷っていたところ、同票になった3人の子供たちが、その書記の役を自分ではなく、他の2人に譲ろうとしていたのです。最終的にはもう一度投票を行い、書記が決定しましたが、その友達に譲る気持ちを表した3人の心温まる優しい姿を見て、胸が熱くなりました。

ご存知の方もおられると思いますが、新学習指導要領(学校の教育課程等の基準とするもの)が告示され、教育のあり方が大きく変わろうとしています。これは、今後、AI(人工知能)など科学技術がさらに進み、20年、30年後は予測不能な時代を迎えると言われて中、その時代を(今の子供たちが)どう生き抜くのかを見据えた考えで作成されたものです。

平成32年度より教科等の多くが新学習指導要領の実施となりますが、「特別の教科 道徳」は、本年度より実施となります。いじめ事件が発端で「特別の教科 道徳」として教科化されました。週に1時間の道徳の学習を要として、学校の教育活動全体で、相手を思いやる気持ち、きまりを守る意識、生命を尊重する気持ちなどを高められるよう指導していきたいと思っています。学校のいろいろな場面で、子供たちの相手を思いやる心優しい言動などが見られることを願っています。ご家庭でも、そういった心情の育成にご協力いただきたいと思います。

